

平成30年度全国学力・学習状況調査

小学校 国語

<平均正答率%>

	市	都	全国
国語 A	74	74	70.7
国語 B	58	57	54.7

A「主として『知識』に関する問題」の平均正答率は、国よりも上回り、都と同じである。B「主として『活用』に関する問題」の平均正答率は、全国・都よりも上回っている。

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか。市（都）

- ・2時間以上.....10.2% (9.0%)
- ・1時間以上.....13.9% (13.3%)
- ・30分以上.....23.4% (23.5%)
- ・10分以上.....26.5% (24.0%)

【国語Aの結果から分かったこと】（ ）は問題番号

○文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く問題について、よくできています。（5）

●登場人物の心情について、情景描写を基に捉える問題（4）に課題があります。心に残った叙述を取り上げ、その叙述を取り上げた理由を考えることを通して、象徴性や暗示性の高い表現、メッセージや題材を強く意識させる表現などに注目できるように指導する必要があると分かりました。

【国語Bの結果から分かったこと】

○計画的に話し合うために、参加者や司会の役割について整理することができています。（1ー 二）

●目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えること（2ー）に課題があります。推薦文を書くときには、推薦する目的や意図、推薦する相手、推薦理由などを明確にした上で文章全体の内容や構成を考えるように指導する必要があると分かりました。

【質問紙から分かったこと】

○読書をする時間の質問に対して、「30分以上」と回答した児童の割合は全国及び都を上回っています。

小学校 算数

<平均正答率%>

	市	都	全国
算数 A	68	67	63.5
算数 B	55	55	51.5

A「主として『知識』に関する問題」は、全国・都よりも上回っている。B「主として『活用』に関する問題」の平均正答率は、全国よりも上回り、都と同じである。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合 市（都）

- ・算数の勉強は好きである.....66.7% (67.5%)
- ・算数の授業の内容はよく分かる85.6%(85.1%)
- ・算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える.....65.0%(62.9%)
- ・算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える.....80.9%(79.8%)

【算数Aの結果から分かったこと】（ ）は問題番号

○分度器を用いて、 180° よりも大きい角の大きさを測定する問題（5 (2)）や、直径の長さと同周の長さの関係についての問題（7 (2)）がよくできています。

●問題場面を的確に捉え、数量の関係を図や数直線などに表すことに課題があります（1 (2)）。数直線上の数量の対応関係や大小関係を的確に捉えるようにするために、説明し合う活動などを通して指導する必要があると分かりました。

【算数Bの結果から分かったこと】

○日常生活の問題の解決のために、情報を収集し、それらを表に整理して、条件に合う事柄について適切に判断することができています（2 (2)）。

●一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取れる情報を適切に判断すること（3 (2)）に課題があります。二つのグラフから読み取ることができる情報を関連付けて考察させるといった指導が必要であると分かりました。

【質問紙から分かったこと】

○●普段の生活の中での活用への意識が高い児童や、もっと簡単に解ける方法を考えている児童が多いこと、算数が好きであると回答した児童の割合が低いことが分かりました。児童が授業の内容についてより分かり、算数を好きになる授業改善を推進していきます。

平成30年度全国学力・学習状況調査

小学校 理科

< 平均正答率 % >

	市	都	全国
全体	63	62	60.3
(知識)	76	76	78.0
(活用)	60	59	56.2

【主として「知識」に関する問題の結果から分かったこと】
() は問題番号

○堆積作用に関係する、科学的な言葉や概念の理解についての問題が、よくできています。(2(1))

●ろ過の適切な操作方法を身に付けること(4(1))に課題があります。器具の操作の手順の理解だけでなく、器具を使用する目的や操作の意味を捉えさせる指導が必要だと分かりました。

【主として「活用」に関する問題の結果から分かったこと】

○学んだことを基にしたものづくりへの適用や、実験結果の見通しを伴った解決の方向性の構想、より妥当な考えへの改善に関する問題ができています。(3(1)(2)(3))

●物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを、食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用させる問題(4(3))に課題があります。学んだことを自然の事物・現象に適用できるようにするためには、既習の内容や生活経験と関連付けて話し合う場を設定し、提示された自然の事物・現象を捉えることができるようにすることが大切だと分かりました。

「主として『知識』に関する問題」の平均正答率は、全国より下回り、都と同じである。「主として『活用』に関する問題」の平均正答率は、全国・都よりも上回っている。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合 市 (都)

- ・理科の勉強は好きである.....83.5% (82.1%)
- ・理科の授業の内容はよく分かる89.6%(88.6%)
- ・理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える.....66.6%(64.9%)
- ・理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている..... 53.0%(53.4%)

【質問紙から分かったこと】

○学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えると回答した児童の割合は全国や都を上回っています。

●授業の中で、自分の考えを周りの人に説明したり発表したりする児童の割合が、全国や都を下回っています。そうした場面や機会を授業の中で児童がもてるように、授業改善を推進していきます。

平成30年度全国学力・学習状況調査

中学校 国語

<平均正答率%>

	市	都	全国
国語 A	78	77	76.1
国語 B	66	63	61.2

A「主として『知識』に関する問題」
B「主として『活用』に関する問題」
ともに、平均正答率は都・全国より上回っており、特にBは3%上回っている。

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか。市（都）

- ・2時間以上.....5.9% (6.3%)
- ・1時間以上.....8.8% (8.7%)
- ・30分以上.....16.0% (16.1%)
- ・10分以上.....26.6% (23.5%)

【国語Aの結果から分かったこと】（ ）は問題番号

○文学的な文章や説明的な文章を読む力や話合いの方向を的確に捉える力は概ね身につけています。（3一二、5一二、6一二）

●歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと（8六3）について課題があります。言葉の意味を考えながら音読したり、音読を聞いたりすることを通して古典特有のリズムを味わいながら理解させていく必要があると分かりました。

【国語Bの結果から分かったこと】

○記述式の問題については、全国・都よりも無解答率が低く、正答率は高いです。

●発表において全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話すこと（2三）について課題があります。説明や発表の際に、話の全体像を明確にし、各部分をどのように組み立てるかを考え、聞き手の反応を踏まえて話す学習活動が必要だと分かりました。

【質問紙から分かったこと】

○読書をする時間の質問に対して、「30分以上」と回答した児童の割合は全国及び都を上回っています。

中学校 数学

<平均正答率%>

	市	都	全国
数学 A	70	67	66.1
数学 B	51	49	46.9

A「主として『知識』に関する問題」
B「主として『活用』に関する問題」
ともに、平均正答率は都・全国より上回っており、Aは3%、B2%都より上回っている。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合市（都）

- ・数学の勉強は好きである.....58.2% (57.2%)
- ・数学の授業の内容はよく分かる73.5%(72.5%)
- ・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える.....38.7%(37.8%)
- ・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える.....71.8%(69.8%)
- ・数学の問題の解き方が分からないときは諦めずにいろいろな方法を考えますか...68.3%(69.1%)

【数学Aの結果から分かったこと】（ ）は問題番号

○文字式の計算や、回転移動した図形を書くといった数学的な技能については、概ね国や都の平均を上回っています。

●絶対値の理解や一次関数の意味の理解に課題があります（1(1)）。絶対値については数直線を活用した指導、一次関数については具体的な事象を活用した指導をしていく必要があると分かりました。

【数学Bの結果から分かったこと】

○不確定な事象を含む問題場面についての情報の読み取り（1(1)(3)）や筋道を立てた証明（4(1)(2)）ができています。

●事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフの解釈に課題があります（3(1)）。数学的に表現された結果を事象に即して解釈することができるように指導していく必要があると分かりました。

【質問紙から分かったこと】

○学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えたり、もっと簡単に解く方法を探したりすると回答した生徒の割合は全国や都を上回っています。

●問題の解き方が分からないと諦めてしまう生徒の割合が、全国や都をやや上回っています。いろいろな手法を用いて課題解決に迫る活動を取り入れるといった授業改善を推進していきます。

平成30年度全国学力・学習状況調査

中学校 理科

< 平均正答率 % >

	市	都	全国
全体	66	65	66.1
(知識)	65	65	67.9
(活用)	67	65	64.9

「主として『知識』に関する問題」の平均正答率は、国よりも下回り、「主として『活用』に関する問題」の平均正答率は、国・都よりも上回っている。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合 市 (都)

- ・理科の勉強は好きである.....54.0% (60.1%)
- ・理科の授業の内容はよく分かる63.0%(66.3%)
- ・理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える.....46.2%(45.3%)
- ・理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている..... 37.6%(39.3%)

【主として「知識」に関する問題の結果から分かったこと】

() は問題番号

○実験の結果を示した表から電流の値を読み取る問題について、よくできています。(6(2)電流)

●太平洋高気圧の特徴(3(2))、神経系の働き(5(1))、原子記号の表し方(8(1))、植物の葉の働き(9(1))等の問題に課題があります。基礎的な知識や技能を確実に習得させる指導を重視する必要があると分かりました。

【主として「活用」に関する問題の結果から分かったこと】

○風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用したり(3(1))、科学実験結果のグラフを分析して解釈したり(8(2))する問題はよくできています。

●魚屋で軟体動物を探す場面において、無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用すること(2(1))に課題があります。身近な事物・現象を観察の対象として取り上げるといった授業の工夫を図る必要があると分かりました。

【質問紙から分かったこと】

○授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えると回答した生徒の割合は、全国や都を上回っています。

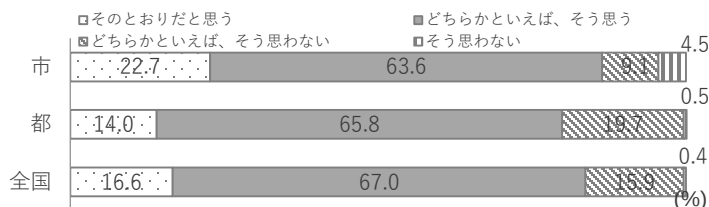
●理科の勉強に興味をもつ生徒や、授業が分かると回答した生徒の割合が、全国や都を下回っています。生徒の関心・意欲を引き出し、主体的に取り組める授業改善を推進していきます。

1 学校質問紙から 学習指導の改善の取組状況

【学校質問紙（１３）】調査対象学年の児童[生徒]は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか
[主体的・対話的で深い学びの視点]

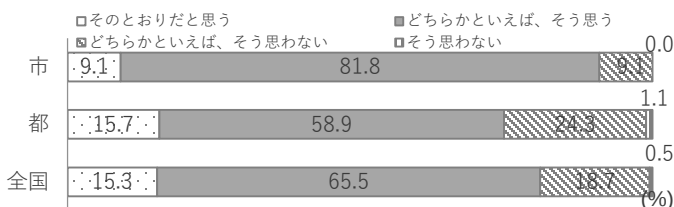
小学校

回答割合



中学校

回答割合

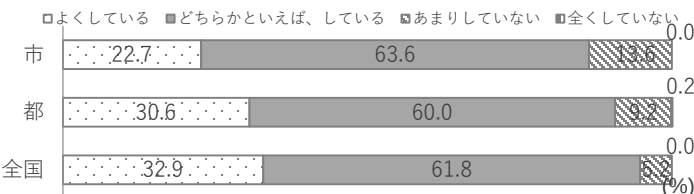


・授業において、課題の解決に向けて、児童・生徒が主体的に考え取り組むことができているかとの質問に「そのとおりだと思う」または「どちらかといえば、そう思う」と回答した府中市立学校の割合は、全国・都よりも多い。

【学校質問紙（小１６、中１５）】指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか
[カリキュラム・マネジメント、学校運営の視点]

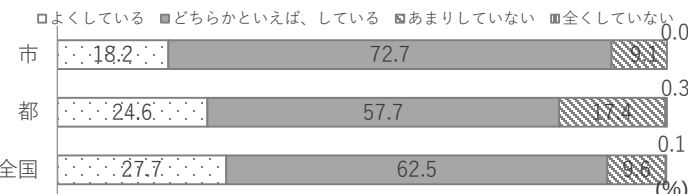
小学校

回答割合



中学校

回答割合

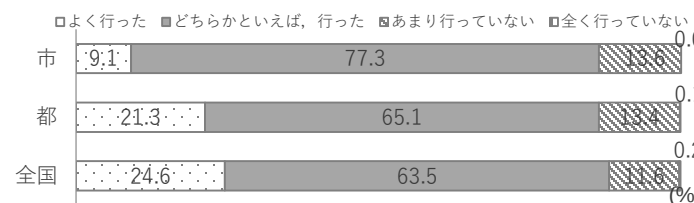


・指導計画の作成に当たって、教科横断的な視点による組織的な指導内容の配列について「よくしている」または「どちらかといえば、よくしている」と回答した府中市立学校の割合は、小学校は全国・都よりも少なく、中学校は都よりも多く、全国と同等である。

【学校質問紙（小４６、中４４）】調査対象学年の児童[生徒]に対する理科の指導に関して、前年度までに、児童[生徒]が科学的な体験や自然体験をする授業を行いましたか
[理科の視点]

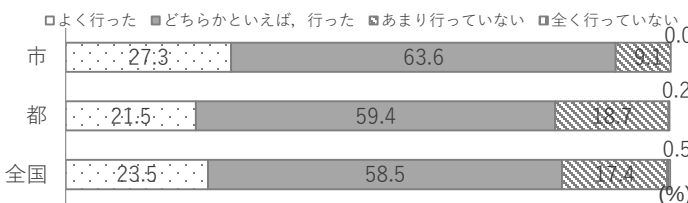
小学校

回答割合



中学校

回答割合



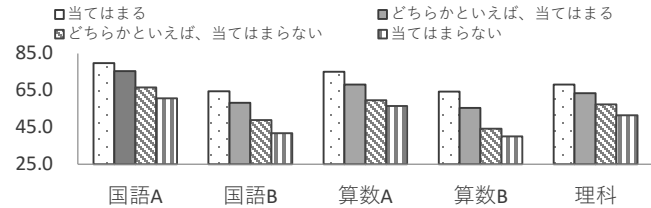
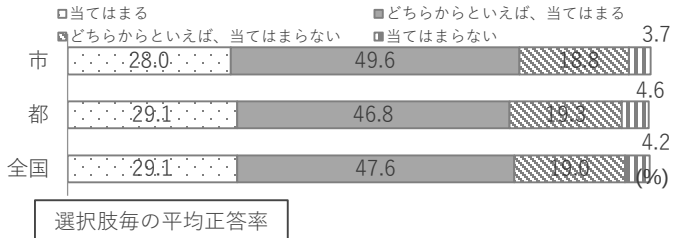
・前年度までに、児童[生徒]に対する理科の指導に関して、科学的な体験や自然体験を取り入れた授業を行ったかという質問に「よく行った」または「どちらかといえば、行った」と回答した府中市立学校の割合は、小学校は全国・都とほぼ同等で、中学校は全国・都よりも多い。

2 - 1児童生徒の質問紙から

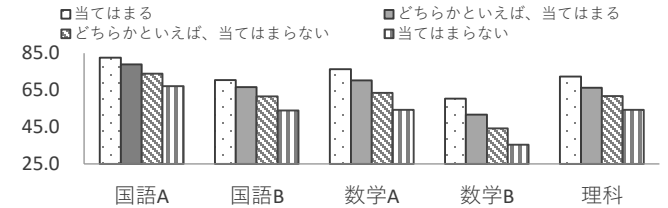
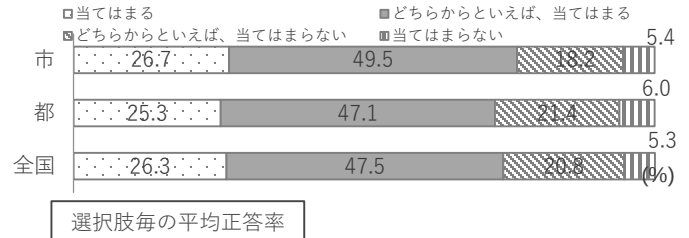
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

【小5 5、中5 2】5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思いますか

小学校

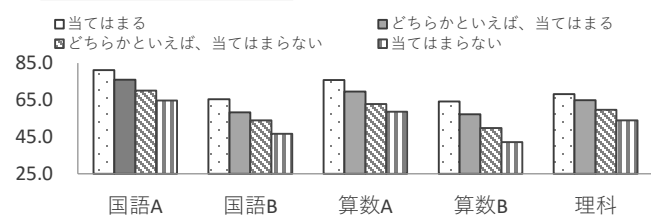
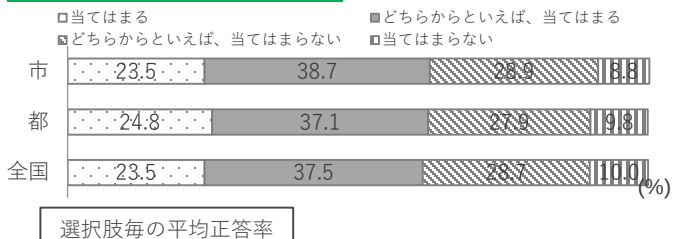


中学校

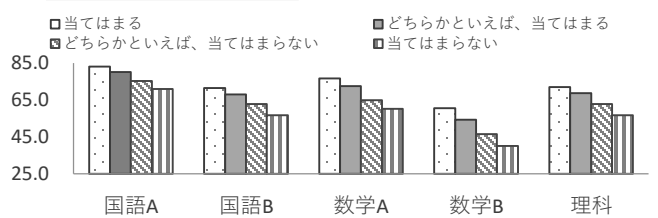
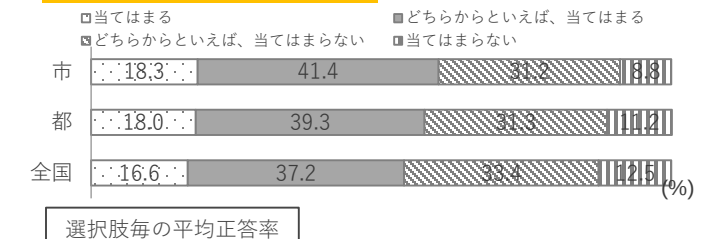


【【小5 6、中5 3】5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか

小学校

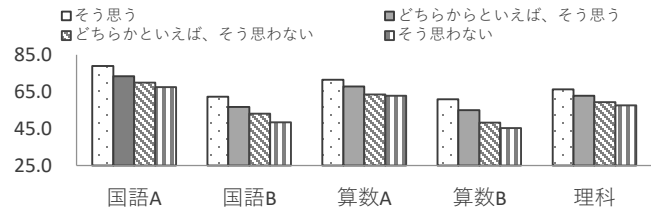
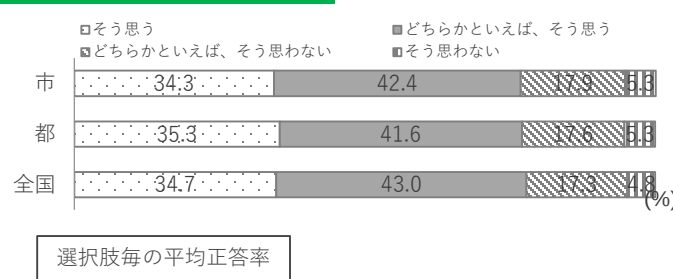


中学校

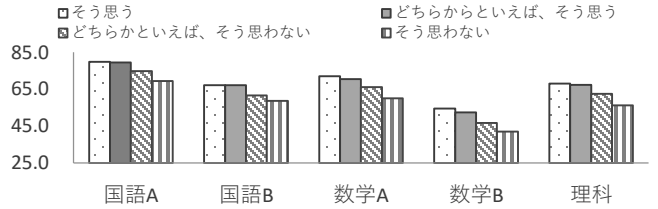
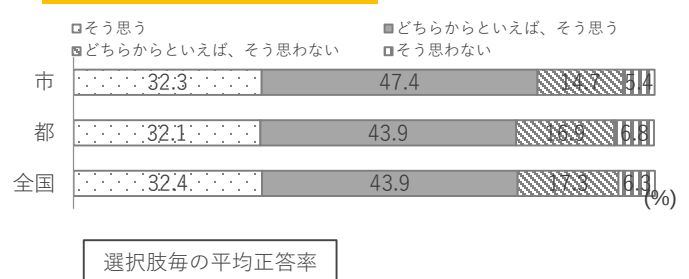


【【小5 7、中5 4】学級の友達と〔生徒〕の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

小学校



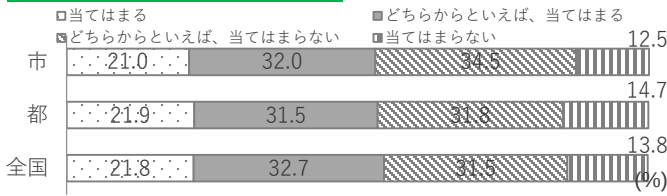
中学校



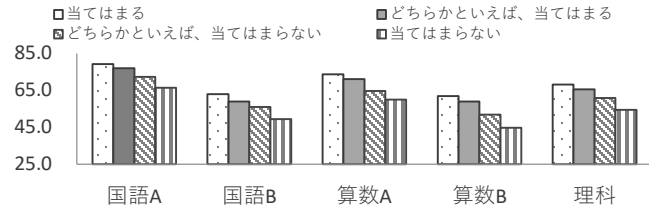
2－2児童生徒の質問紙から 理科の指導方法

【４５】理科の授業で、自分の考えを周りの人に説明したり発表したりしていますか

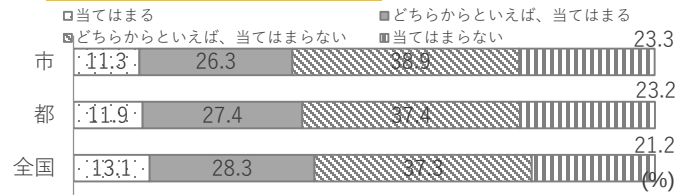
小学校



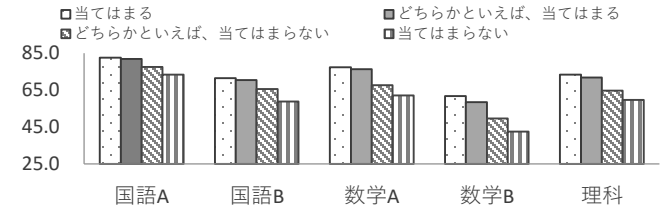
選択肢毎の平均正答率



中学校

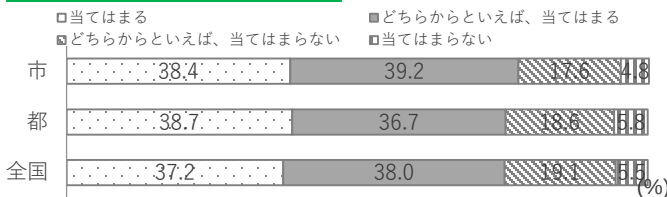


選択肢毎の平均正答率

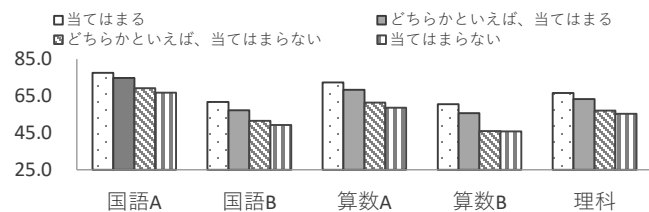


【４８】理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか

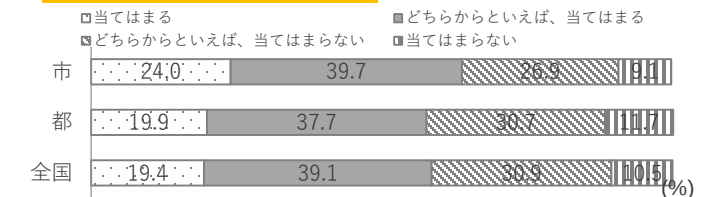
小学校



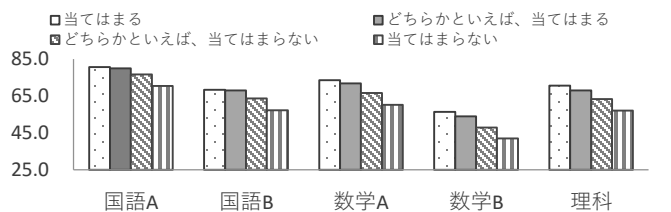
選択肢毎の平均正答率



中学校

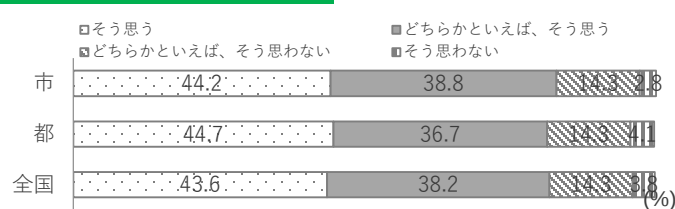


選択肢毎の平均正答率

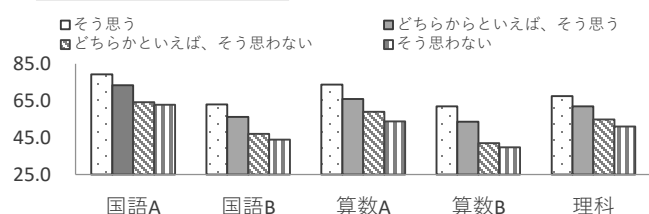


【４９】理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか

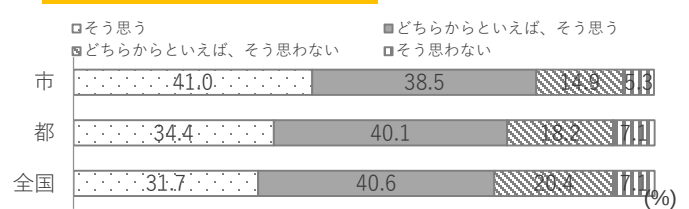
小学校



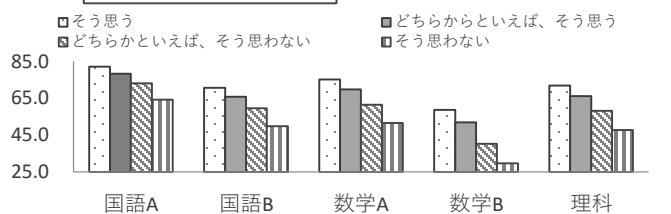
選択肢毎の平均正答率



中学校



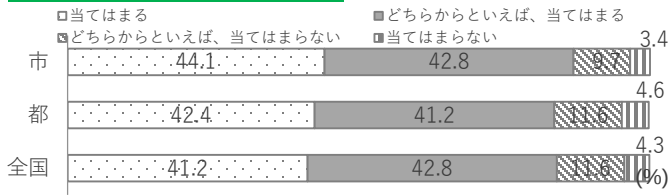
選択肢毎の平均正答率



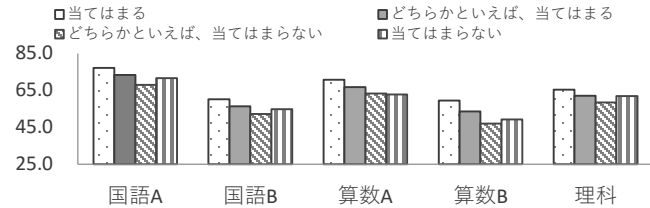
2－3児童生徒の質問紙から 規範意識、自己有用感等

【1】自分には、よいところがあると思いますか

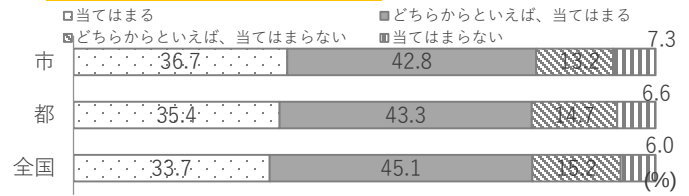
小学校



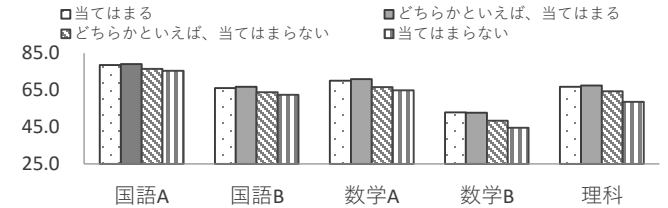
選択肢毎の平均正答率



中学校

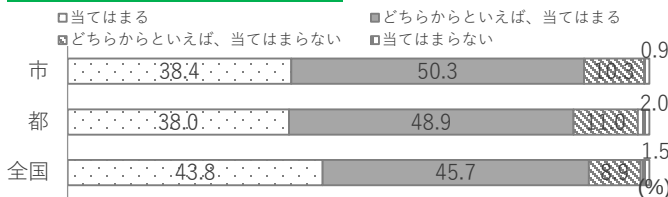


選択肢毎の平均正答率

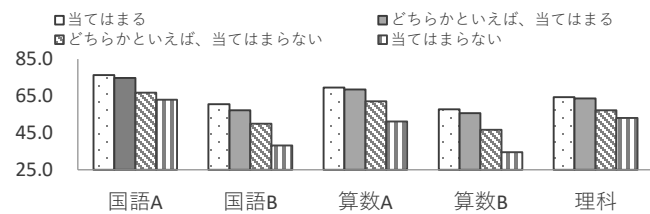


【4】学校のきまり〔規則〕を守っていますか

小学校



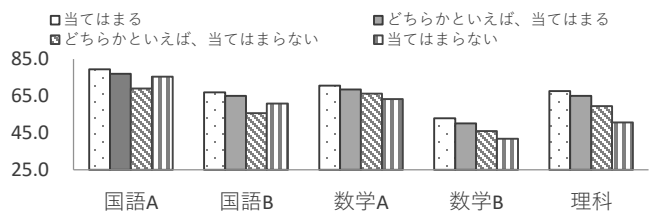
選択肢毎の平均正答率



中学校

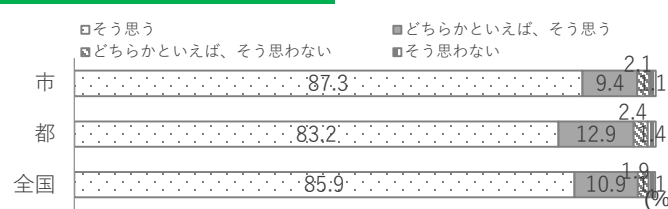


選択肢毎の平均正答率

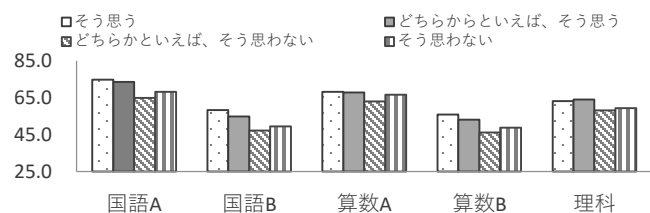


【5】いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

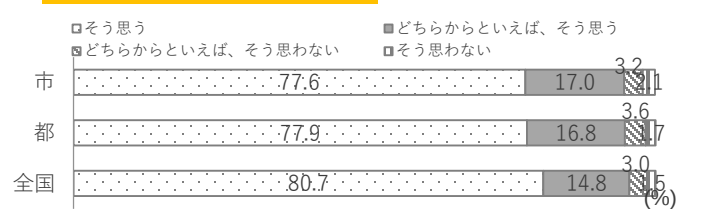
小学校



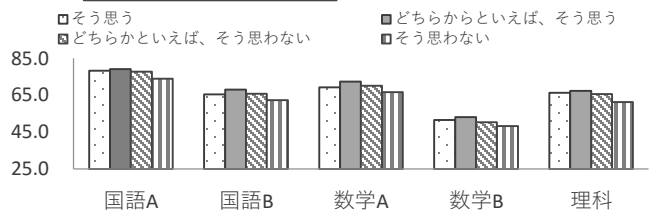
選択肢毎の平均正答率



中学校



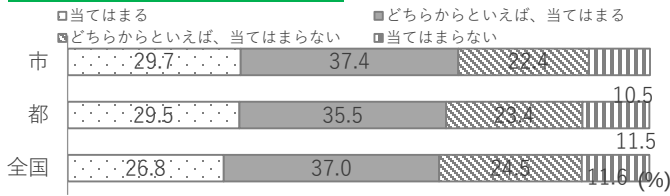
選択肢毎の平均正答率



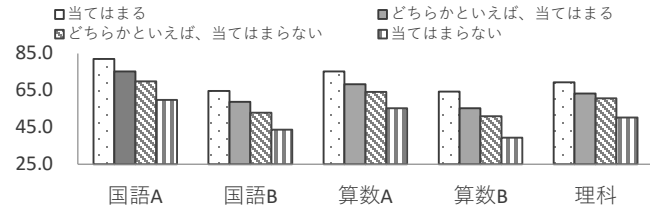
2－4児童生徒の質問紙から 地域や社会に関する調査関連

【2 1】地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか

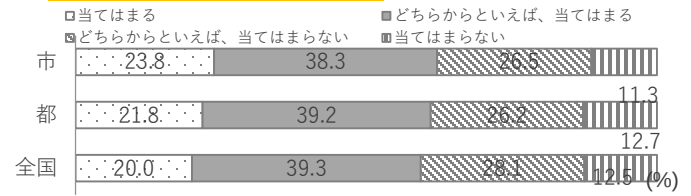
小学校



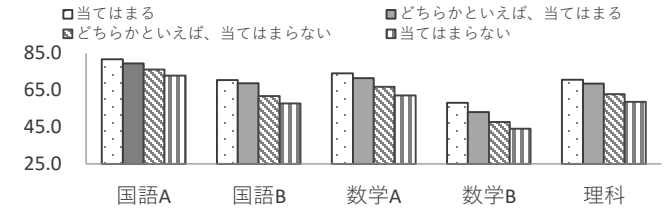
選択肢毎の平均正答率



中学校

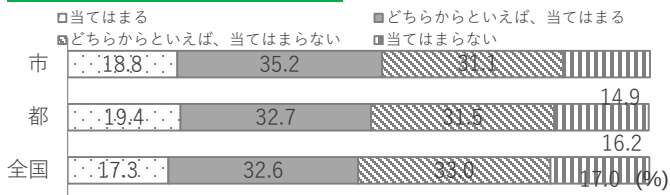


選択肢毎の平均正答率

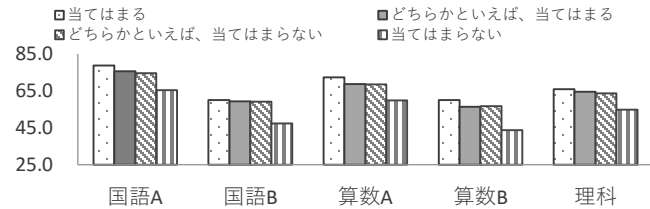


【2 2】地域や社会をよくするために何をすべきか考えることができますか

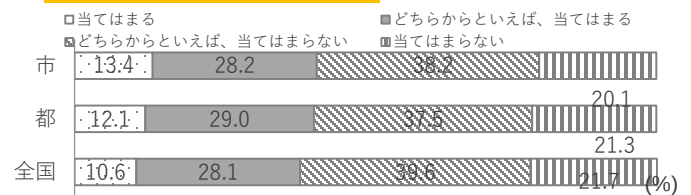
小学校



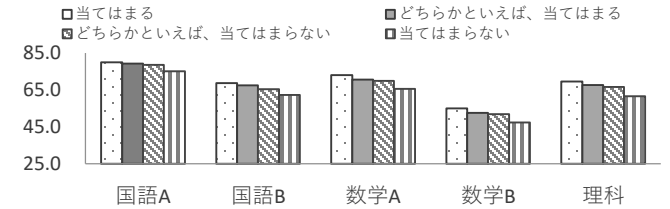
選択肢毎の平均正答率



中学校

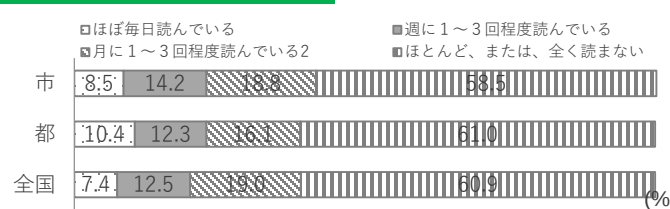


選択肢毎の平均正答率

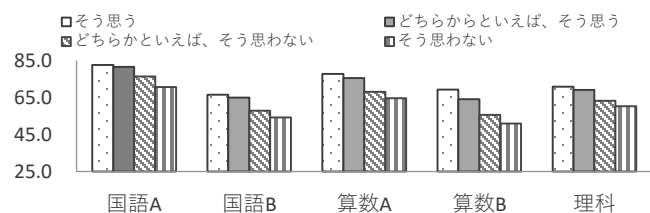


【2 5】新聞を読んでいますか

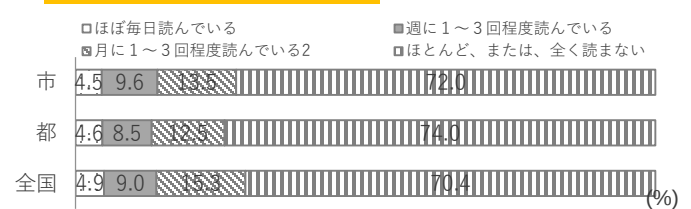
小学校



選択肢毎の平均正答率



中学校



選択肢毎の平均正答率

